

# 多様な主体の参画による生物多様性の保全

—生物多様性保全機能—

## すが う だ さ た お き 清し有田佐田沖環境保全会



クロゲンゴロウ

地域だけでの里地・里山の保全管理が難しくなったことから、多様な主体の参画による保全活動を目指して、令和3年には地元企業と里地・里山の保全等に関する協定を締結。

そのほか、地元のNPOや生物の専門家とも連携してビオトープをフィールドに生物多様性の保全活動等に取り組んでいる。



田んぼ池

### 〔生物多様性の保全〕

長年放置された谷津田一帯をビオトープとして位置づけ、草刈りや木の伐採を行い、素掘りの水路や田んぼ池を整備して多様な生きものの生息空間を創出。

生き物調査では多種多様な生きものが確認されており、クロゲンゴロウやホトケドジョウ等の近年ではあまり見られなくなった生きものも確認されるなど、人の手が加わることによって維持される里山の生物多様性が保全されている。



散策用の木道の整備

### 〔体験学習と教育、地域社会の振興〕

地元の小学生を対象に出前授業や生きもの観察会を開催。児童たちが、様々な生きものが繋がりながら生きていることを体感し学習できる絶好の機会となっている。

ビオトープ内には木道が設置され散策しやすいため、保全会が主催する里山ウォーキングのコースにもビオトープが組み込まれている。

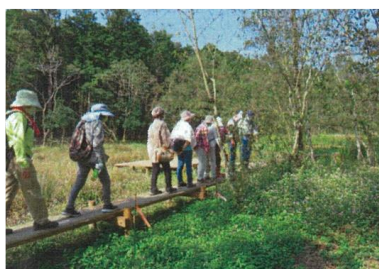
こうした活動は、SNSでの発信、地元紙や町の広報誌などでも紹介され地域のイメージアップにも一役買っている。



ビオトープの案内看板



生きもの観察会



里山ウォーキングでの散策



デッキでのミニコンサート